



★第16回漢字カップの開催

2月25日(日)、スラバヤ国立大学(UNESA)において、第16回漢字カップが開催されました。本事業は、多くの日本語学習者が苦手としている漢字をクイズ形式で出題し能力を競う大会で、漢字に対する苦手意識を払拭し、日本語学習のモチベーション向上を目的として2002年より毎年開催しているものです。本年も東ジャワ州のみならず、ジョグジャカルタ、バリ、スマラン、ジャカルタ、バンドウン等州外からも参加者が集まり、初級の部に計126名、中級の部に計32名(1チーム2名)が出場しました。冒頭の開会式において谷総領事は、同事業が各地の日本語学習者にとってのモチベーション向上の契機となることを期待している、本年は日本インドネシア国交樹立60周年であり、次の10年、20年、或いはその先の世代を担う参加者の皆さんが両国友好関係深化の担い手となることを期待している旨述べ、出場者を激励しました。熱戦の結果、初級優勝はドクターストモ大学モハマッド・アフィフディンさん、準優勝は当地日本語学校JASMINカリナ・テジョサプトゥロさん、中級優勝はバリ州デンパサールのSTIBA Saraswati Denpasarチーム、準優勝はJASMINチームとなり、中級においては漢字カップ史上初めて州外のチームが優勝を果たしました。初級中級の競技後には中級優勝チームとスラバヤ日本人学校(SJS)小学部6年生チーム(細川瑠菜さん、國吉恵美さん)、中学部1年生チーム(森本理希くん、國吉匠くん)及び元留学生協会(プルサダ)東ジャワ支部代表チームとの間でエキシビジョンマッチが行われ、SJS小学部チームが勝利しました。エキシビジョンマッチにご協力頂いたSJS関係者の皆様をはじめ、本事業にご協力いただいた関係者の皆様に心より御礼申し上げます。



会場の様子



エキシビジョンマッチの様子



初級及び中級優勝者・準優勝者を交えての集合写真

★国際交流基金主催写真展「東北—風土・人・暮らし」のご案内

この度、国際交流基金は、下記の要領にて写真展「東北—風土・人・暮らし」を開催します(当館、Orasis Art Gallery 共催)。写真評論家の飯沢耕太郎氏監修による本写真展は、被災状況や復興の様子をレポートするものではなく、写真作品を通して、東北の風土、人、暮らしを浮かび上がらせようとするものです。東北にゆかりのある、しかし世代も表現も様々な10人の写真家による作品で構成されており、1940年代を中心に撮影された過去の作品から、現在進行形の作品までを同時に展示し、過去・現在・未来を貫く個性的な写真家の視点を通して、奥深い東北の魅力を海外の人々に広く紹介する内容です。一般公開、入場無料ですので、お時間のある方はご来場ください。

日時： 3月20日(火)～29日(木) 11:00～19:00

場所： Orasis Art Gallery (オラシスアートギャラリー)
Jl. HR. Muhammad St No.94, Surabaya, 60226